

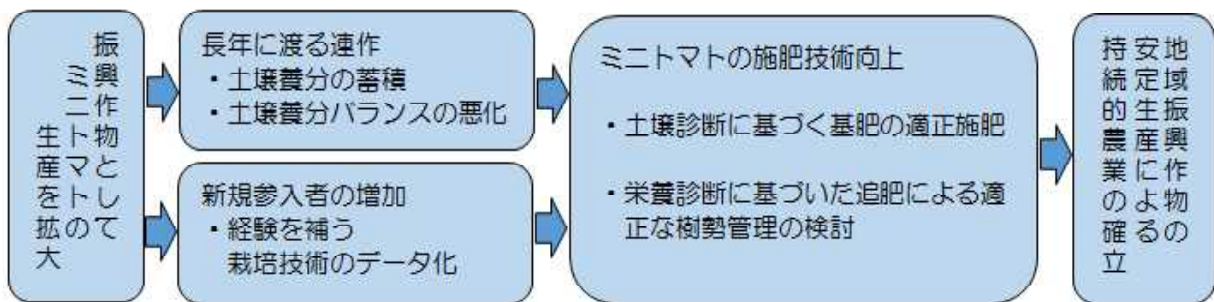
ミニトマトの栄養診断に基づく樹勢管理で安定生産を！ ～地域をリードする東別地区の取り組み～

◆活動年次：平成28年度～平成32年度

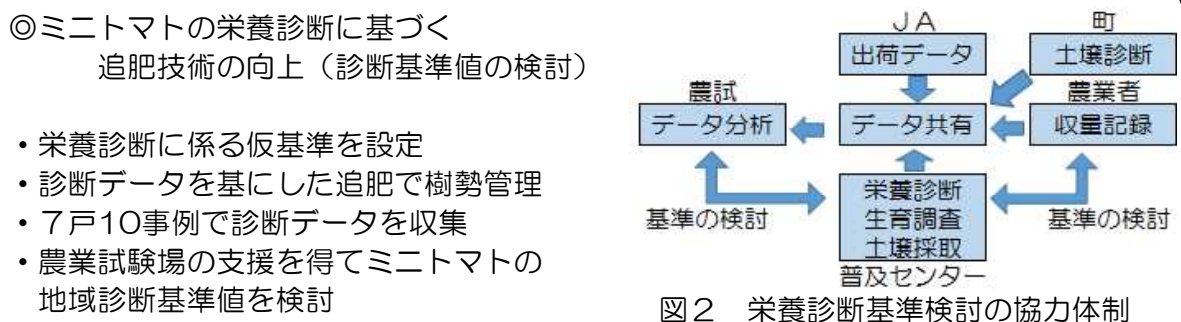
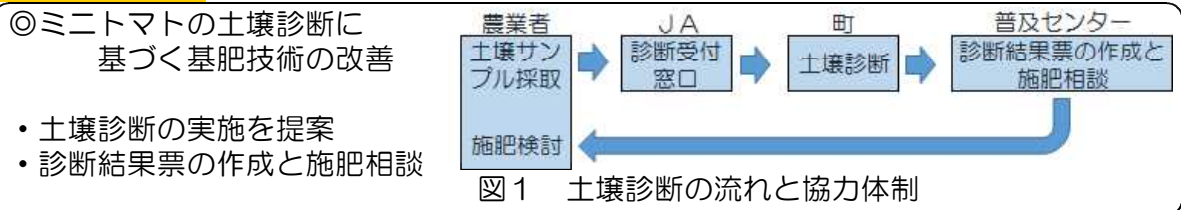
◆対象：新ひだか町静内東別3農事組合地区 11戸

1 課題の背景

新ひだか町静内地区では、地域振興作物としてミニトマトの生産額を伸ばしている。しかし、長年に渡る連作から土壌の富栄養化が進み、経験や勘に頼る肥培管理が難しくなっている。また、農家の高齢化や担い手不足から、新規参入者を多数受け入れており、経験の少ない就農者にとって、生育を見ながらの肥培管理は高い技術が求められる。このことから、農家や関係機関と連携して、経験や勘に頼らない肥培管理方法として、栄養診断に基づく追肥技術の導入を検討した。



2 活動の経過



花房直下葉先端葉柄による栄養診断（硝酸態窒素濃度測定）の流れ



3 活動の成果

土壤診断に基づく施肥でコストをダウン・収量を維持

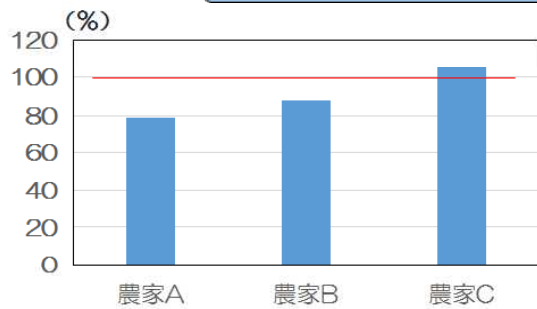


図3 土壤診断結果に基づく施肥コストの変化（前年比）

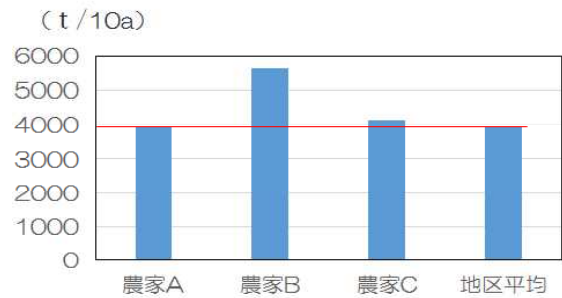


図4 土壤診断に基づく施肥と収量

栄養診断データを7戸4作型で10事例収集・診断基準を作成

第一花房直下葉の診断では8,000~10,000ppmで樹勢が良好

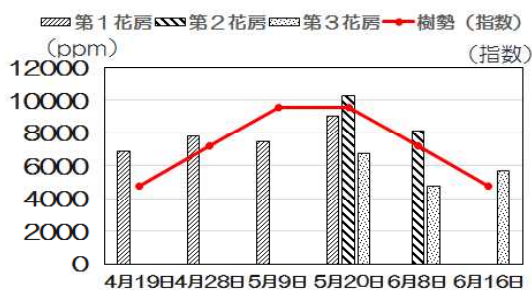


図5 栄養診断調査事例①
促成作型 収量4,430kg/10a

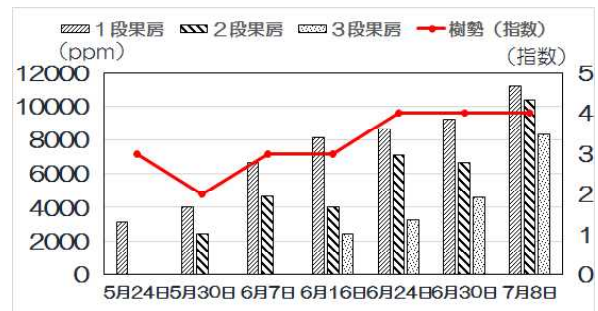


図6 栄養診断調査事例②
半促成作型 収量5,356kg/10a

ミニトマトの栄養診断基準（暫定値）を作成

収集データを
農業試験場で
解析

区分	硝酸態窒素濃度 (ppm)	
	促成・半促成作型	半抑制・抑制作型
第1花房直下 (第3花房開花期以降)	8,000~10,000	—
第2花房直下 (第5花房開花期以降)	7,000~9,000	—
第3花房直下 (第7花房開花期以降)	6,000~8,000	5,000~8,000

◎栄養診断実施農家から

- ・追肥したいから診断結果が出たら早く教えて～
- ・追肥の判断にとっても参考になるね!
- ・新規参入の人たちには
わかりやすくて良いと思うよ!



4 今後の課題

- 作成した栄養診断基準値（暫定）に基づく現地実証
- 抑制作型における第1～第2花房直下の基準値作成
- 栄養診断手法の簡易化とほ場での実施